

廃校となった 小学校施設を中心とした地域づくり

13班 コミュニティデザイン学科 本城 ゆうな 大橋 扶結
 建築都市デザイン学科 河村 悠太 小太刀 栞那
 社会基盤デザイン学科 吉澤 健太
 パートナー 鹿沼市役所 総務部 企画課

1. 背景と目的

2018年に廃校となった鹿沼市にある西大芦小学校が、民間企業が運営するホテルに用途変更されることが決まっている。この地区では若者が他地域に流出し過疎化が進み、高齢者の割合が高くなっている。一方で、多くの人が古峯神社をはじめとする西大芦地区に観光に訪れている。そこで、地域の人にとっての居場所となるほか、観光客にも利用してもらえるような、小学校を中心とした地域活性化が今回の課題である。



図1 大芦川 図2 西大芦小学校外観写真

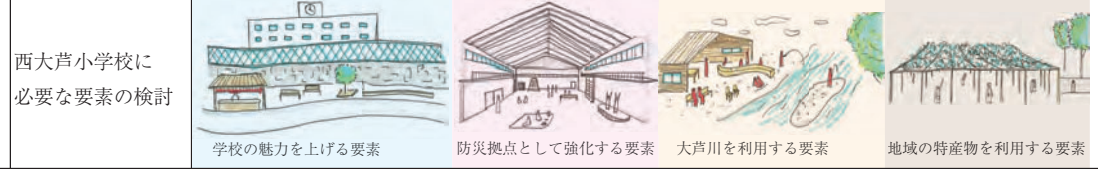
2. 調査目的

調査① アンケート調査
 運営方法や施設の活用方法、地域との関わり方について知る。調査で学んだことを、西大芦小学校でも取り入れることができそうなアイデアとして提案につなげていくことが目的である。

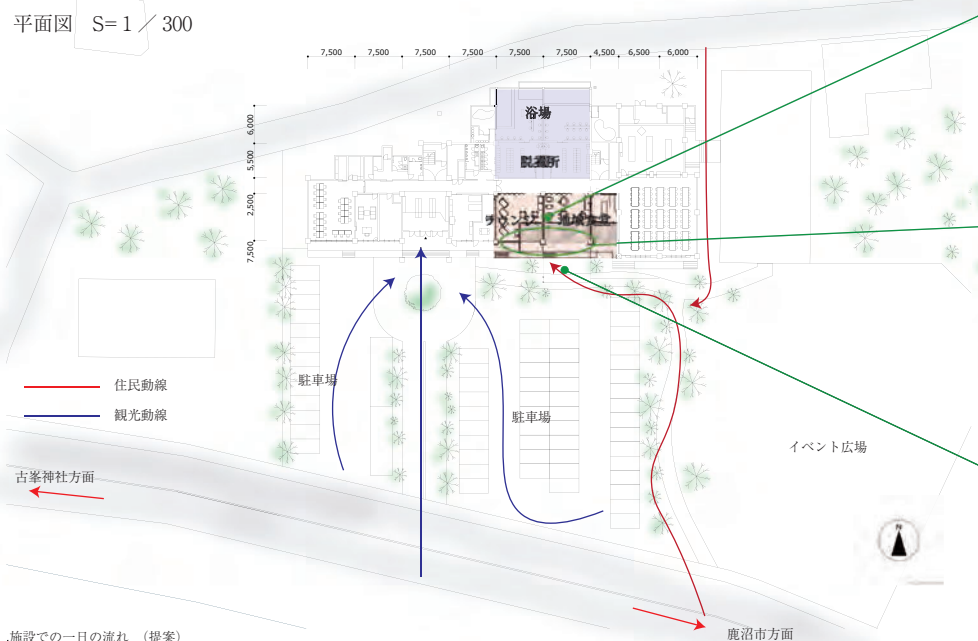
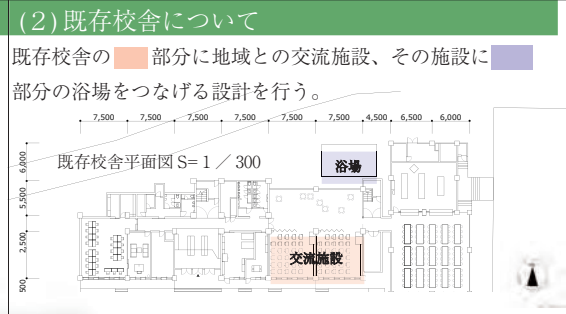
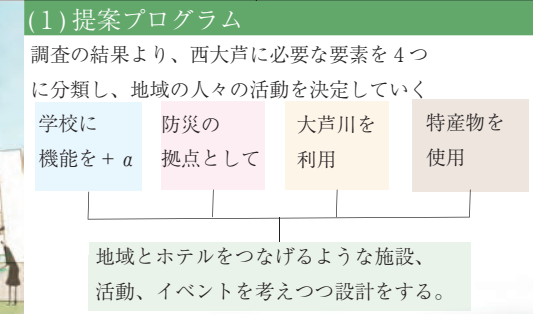
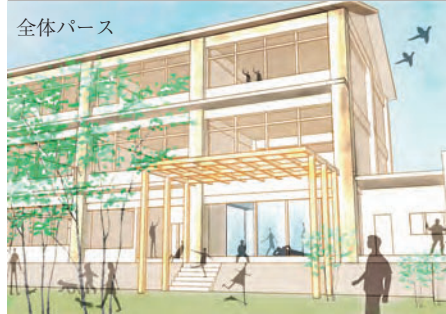
調査② ヒアリング調査
 観光客や地域住民が、ホテルに何を望んでいるのかというニーズを知ることが目的である。この結果から、具体的にホテルのどの機能に着目して提案するのか、ハード面から考える。

3. 調査方法・結果分析

	調査①	調査②
方法	〈対象〉 廃校を宿泊施設として活用している全国の企業 〈方式〉 インターネット上でのアンケート	〈対象〉 観光客、地元住民 〈方法〉 ヒアリング
結果	〈質問内容〉 ターゲット層や周辺地域とのかかわり方など 〈回答〉 地域住民の雇用、地元食材の利用など 〈分析〉 地域との関わりについては、地域住民の雇用や地元食材の利用といった、施設があることの利益が地域に還元されるような工夫がみられた。機能については、展望風呂や美術館などの併設機能を加えつつ、学校の雰囲気は残すという事例があった。以上のような結果から、地域とのつながりや地域住民に何かしらの形で利益がもたらされるような仕組みをつくるのが重要だとわかった。また、学校に泊まることができるという特徴だけでなく、その地域に合った機能を付け加えることで、差別化を図るとよいのではないかと考えた。	〈質問内容〉 回答者が西大芦小学校のホテルに大浴場やレストランなどどのような機能を求めるか 〈回答〉 回答人数約40人 観光客 39.4% (大浴場), 27.1% (レストラン), 21.2% (その他), 12.3% (イベント) 地元 28.6% (大浴場), 42.8% (レストラン), 14.3% (その他), 14.3% (イベント) 男性 40.9% (大浴場), 32% (レストラン), 15% (その他), 12.1% (イベント) 女性 33.3% (大浴場), 47.4% (レストラン), 11% (その他), 8.3% (イベント)



4. ホテルの利用客と地域住民をつなげる複合施設の提案 concept 地域の方が気軽に訪れることができるような居場所を作る



i) 地域食堂を作る

主な用途

- 大芦川で釣った魚の調理場
- お弁当作り
- 調理教室
- 地元の食材を使った料理を提供

ii) 提案2 地域の縁側の提案

主な用途

- 足湯
- ステージ
- 浴場への玄関
- こたつ

縁側を3分割することで観光客と地域住民が双方過ごしやすい場所を作る。

iii) 地域市場の提案

地域食堂

地域市場

主な用途

- 野菜直売
- ピアガーデン会場
- 休憩広場
- 災害時の炊き出し場

施設での一日の流れ (提案)

	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
提案場所	地域食堂		仕込み			地域食堂開店		調理教室		魚調理		空き時間は休憩場所として利用	
地域の縁側			浴場の開館に伴い足湯稼働							映画観賞会			
地域市場	地域の朝市 野菜直売					フードコートとして利用			空き時間は休憩場所として利用			ピアガーデン会場	